

令和5年

総務委員会
所管事務調査 会議録

7月13日(木)

防府市議会

令和5年7月 総務委員会所管事務調査会議録

- 日 時 令和5年7月13日(木) 午前10時
- 場 所 議会棟1階・第1委員会室
- 付議事件 文化・スポーツ・観光について
第3次観光振興基本計画について
・進捗状況について
・コロナの変更に伴う対応について
・次期観光振興基本計画について
-

○出席委員(6名)

総務委員長	高 砂 朋 子
総務副委員長	梅 本 洋 平
総務委員	今 津 誠 一
〃	久 保 潤 爾
〃	曾 我 好 則
〃	三 原 昭 治

○欠席委員(2名)

総務委員	橋 本 龍太郎
〃	松 村 学

○委員外議員(5名)

河 村 孝
河 杉 憲 二
田 中 健 次
村 木 正 弘
山 田 耕 治

○説明のため出席した者(3名)

文化スポーツ観光交流部長	杉 江 純 一
文化スポーツ観光交流部次長	瀬 川 博 巳

○出席書記

中 司 達 朗

午前10時 開会

○高砂委員長 おはようございます。ただいまより総務委員会を開催いたします。

本日の欠席の届出のありました委員は、橋本委員、松村委員でございます。

本日は、閉会中の継続調査事件となっております文化・スポーツ・観光についての第3次観光振興基本計画について調査をいたします。

それでは、執行部の説明を求めます。

○杉江文化スポーツ観光交流部長 それでは、文化スポーツ観光交流部から、第3次観光振興基本計画について、進捗状況について、それからコロナの変化に伴う対応について、次期観光振興基本計画について御説明を申し上げます。

○福谷観光振興課長 おはようございます。観光振興課、福谷でございます。

それでは、このたびの所管事務調査、観光振興基本計画の件につきまして、観光振興課のほうから御説明をいたします。

初めに、本計画の概要について御説明いたします。お手元の資料、お配りしております資料の1ページ目から4ページ目までになります。

まず、本計画の概要でございます。本計画は令和2年度、コロナの真ただ中に、令和3年度から令和7年度までの5か年という計画期間で策定しております。

本市の観光地域づくりにおける基本的な指針を示すということを目的に、このたびの基本理念は、地域の誇りの醸成、そして地域の経済効果、観光振興、この2つの効果を好循環させることにより、誰もが住みたくなる、訪ねたくなる観光地域づくり、これを基本理念に掲げて、第5次防府市総合計画の分野別施策のうち、観光振興に関する個別計画として策定しているものでございます。

このたびの第3次観光振興基本計画の構成でございますけれども、本市が有するたくさんの方々の様々な、今、PRしてます4施設をはじめとしまして多様な資源がございますが、この多様な資源を自然、歴史、スポーツ、生活文化のこの4つが本市を構成する要素、キーワードとしまして、それぞれにつきまして、受け入れ環境の整備や観光の資源の保全、維持など、あと、食、そして効果的な情報発信とか、観光コンテンツづくりなどといった、観光地と食、おもてなしという3つの視点から取組を進めていくという構成になっており

ます。それぞれの4つのキーバリューにつきましては、1ページに載せております自然、歴史、スポーツ、生活文化、このようになっております。

また、その2ページ目の図が示しますように、この4つのキーバリュー、本市を構成する要素を生かした観光振興によりまして、本市の認知度の向上、そして観光客の回復、そして観光消費単価の向上といった地域内での好循環を生み出すことにより、地域の活性化、地域の振興につなげていくことが、本市の観光戦略の基本的な考え方となっております。

そして、この好循環を生み出すための振興施策方針としまして、その4つのキーバリューについて、観光地受入れ環境の整備ですね、あと、食、そしてあと情報発信や観光コンテンツ作りといったおもてなし、この3つの視点からそれぞれ取組を展開することとしているものでございます。

以上が、本計画の概要でございます。

さて、続きまして、今回の調査案件としましての進捗状況、そしてコロナの変化に伴う対応、そして次期観光振興基本計画について順に御説明いたします。

まず、1点目の進捗状況についてでございます。資料3ページになりますが、計画の進捗状況を図るための重要業績評価指標——K P I としまして本市の認知度向上と、観光客数と、1人当たりの観光消費額、この3点を用いております。認知度向上の指標につきましては、ブランド総合研究所が毎年実施しています地域ブランド調査で、そして観光客数は毎年年初めに本市で実施しております調査、そして1人当たりの観光消費額はウェブアンケート調査によりそれぞれ把握しているところでございます。

その3つの指標、今、お手元の資料で表で示しておりますが、まず認知度向上につきましては、計画策定当初2019年の439位から昨年22年は503位とちょっと70位近く順位を落としているという状況となっております。なかなかちょっとこれはブランド調査、全国の20代から70代までの方を対象としたインターネット調査で出されているものでございまして、なかなかちょっとコロナ禍ということで、なかなか全国に向けていろいろと頑張ってはきたんですけども、まだまだPRが足りていないのかなというふうに分かっているところでございます。

また、ちょっと1つ下りまして、3番目の1人当たりの観光消費額につきましてですが、これは計画策定当初5,722円から2020年は約5,000円ですね、4,999円と、こちらにつきましてもちょっと計画策定当初より減少している状況でございます。こちらにつきましても、ちょっと目標最終年の1万円というところからしたらまだ半分という状況となっております。なかなかコロナということで、観光客数もちょっと落ち込んではいらんですけども、あとは、来られた方もそんなに滞在時間が長くなかったことが、

その辺の見てすぐすぐ次へ、ささっと帰っていく、なかなか観光、物を買うということにはなかったのかなというふうに分析しているところでございます。

最後に2番目の観光入込客数につきましてですけれども、こちらにつきましてもコロナの影響もありまして、計画策定当初、コロナの前の年の令和元年ですね、239万、約240万から見まして、2022年は約204万8,000人ということで減少しておりますが、こちらにつきましては、コロナ禍から少しずつやれることはやった、コンベンション協会とかとも連携しながら実施できるイベントにつきましては極力継続して、読売マラソンとかも含めてやってきたところでございますが、その成果があって、減少はしていませんけれども、何とか少しずつ2020年から2021年で22年と、少しずつ回復基調にあります。こちらについては徐々に回復しているところでございます。

全般的に見まして、コロナ禍における計画策定ということで、ちょっと先も見えない中での計画ではありましたが、まだ現時点ではコロナの影響を受けていると言えそうですけれども、このたび、この後も説明しますけれども5類引下げに伴う観光需要の高まりが大きなチャンスでございますので、当初の目標、2025年度のところの目標に掲げております、それに向けた歩みを大きく前進させるためには、今後、観光コンベンション協会などと一体となって、各指標が上向くように取組を進めてまいります。

続きまして、2点目のコロナの変化に伴う対応について、コロナ後の取組について御説明いたします。

コロナ禍において全国的に減少する中で、これまで本市では4施設を中心としたPRに加えて、各施設やコンベンション協会とも連携しながら、防府天満宮の花回廊や「すごいぞ！防府」秋の大イベント、読売マラソンなど実施できるイベントについては実施してまいりましたところでございます。この結果、県全体に比べても防府市の落ち込みは小さくとどまったところでございますけれども、このたびのコロナ、5月の感染症法上の分類の引き下げによりまして、今、観光V字回復に向けて国内誘客対策、海外誘客対策、受入れ環境整備、この大きく3つの点について、今、取組を強化しております。

まず、国内誘客対策につきましては、当初予算において観光需要喚起緊急対策事業として、まず団体旅行助成事業を実施しております。これは、防府市内から貸切りバスを利用しまして、市内の指定観光スポットを2か所以上立ち寄って、1か所以上有料入場を組み込んだ団体バスツアーにつきまして、その企画する業者に対して旅行料金の一部を助成するというところでございます。

続きまして、大手旅行会社とタイアップした、こちらのほうは個人向け旅行ですね、鉄道と防府市内の宿泊をセットにしたツアー商品、旅行商品の防府だけの専用旅行商品をパ

ンフレットも含めて造成してもらおうという、それに対する支援を行っているところでございます。

そしてもう1つが、情報発信の一層の強化ということで、先ほどの認知度の向上に向けて、テレビやSNSなどの媒体を利用して行う中で、全国に向けた観光プロモーションを実施するという情報発信事業を、このたび今展開しているところでございます。全国の視聴率のある旅番組ですね、これをちょっと秋に、放送に向けて今、調整をしているところでございます。

この3つの施策を今、広報戦略室や観光コンベンション協会と展開しているほか、またコロナ禍でも実施してまいりましたけれども、歴史的節目を生かした市内の周遊促進をするための事業。今年度につきましては、毛利元就公の、姉妹都市の安芸高田にあります郡山城入城500年、毛利隆元公の生誕500年、毛利輝元公の生誕470年の節目でございますので、この節目を記念した毛利博物館では、それぞれ春先からこの秋まで企画展が連続して行われておりますけれども、この企画展と連動しましてギャラリートークのイベント、あとは親子イベントというのもこの間6月18日に行ったんですけれども、そういった呼び込むためのイベントのほか、天満宮や、周防国分寺など周遊させるスタンプラリーだとかビンゴラリーなどの取組を実施して、1箇所にとどまらずに市内のいろんな観光スポットを回らせるためのイベント等、そういった市内周遊促進に向けた事業を展開しているところでございます。

続きまして、海外のインバウンド対策としまして、このたび採択されました観光庁の補助事業、インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業と言いますが、これを活用しまして、コンベンション協会、旅行会社とタイアップしたインバウンド誘客に視野を向けた旅行商品の造成を進めているところでございます。具体的には、訪日外国人には好評であります体験型、これをキーワードにしまして、今までちょっと行ってきていませんでしたけれども、旧毛利家本邸の夜間見学だとか、毛利氏庭園のライトアップ、鋳物作りとか、あとは塩作り体験もあるんですけれども、本市ならではの体験型コンテンツに目を向けまして、そこへ踏み込んだインバウンド向けの旅行商品を今開発して、訪日観光客向けのメディアでの情報発信をこれから行ったり、またこの秋には在日インフルエンサーを対象としたモニターツアーを実施して、来年度以降のインバウンド誘客につなげていこうというところで今、取り組んでおります。

また、県や中国運輸局とも連携しまして、台湾や韓国などのアジア圏を対象とした海外の旅行会社との商談会にも積極的に参加しながら情報収集、あるいはこちらの体験型コンテンツとか防府の観光素材を積極的に盛り込んでいくところでございます。

さらに、先日の6月議会でも御承認いただきましたけれども、秋から本格化する観光需要に向け、今、観光コンベンション協会関係機関と一体となって行う諸事業の効果が最大限に発揮できますように、観光客受入環境緊急対策事業としまして、防府駅及び防府駅周辺、また天満宮周辺などの主要観光施設の観光案内板の多言語化だとか、古くなったところのリニューアルだとか、そういうところを今、秋までに完了するように進めているところでございます。

以上が、今のコロナ後の取組についての御説明となります。

最後に、3点目の次期観光振興基本計画についてでございます。

計画策定から本年が3年目になりますが、5か年の計画でございますので、来年度、令和6年度から観光振興基本計画の進捗管理とかなのために設置されております防府市観光振興推進協議会において、来年度からちょっと協議を始めていきたいと、方向性、その委員の方の知見を取り入れながら計画の策定を進めてまいりたいと考えております。

計画の策定に当たりましては、本計画の位置づけを踏まえまして、総合計画に掲げる方向に沿ったものとなるように調整して進めていくこととしております。

御説明については以上となります。よろしく願いいたします。

○高砂委員長 ありがとうございます。

それでは、執行部の説明に対する質疑を求めます。

○久保委員 御説明どうもありがとうございました。

資料の3ページに、テレビやSNSなど各種媒体を活用し、全国に向けた観光プロモーションをというふうにあります。今後、やっていかれるということだっんですけども、この前、「鉄腕！DASH！！」という番組で防府が取り上げられたんですけど、その反響というのはどんなものだったのか、数字的なものをつかんでおられるか、その辺りをお聞きしたいんですけど、よろしいでしょうか。

○福谷観光振興課長 数字的な部分は、その辺はちょっとつかめてはいないんですが、ただ、コンベンション協会とかに、あのときに紹介された丼ですかね、ぶっかけ飯ですか、あれについては食べられるのかとか、結構反響、問合せは来てたということで報告は受けております。反響は十分あったと考えております。

○久保委員 やっぱり人気番組というのはすごく影響力があるということがよく分かるわけで、次に、秋にまたテレビのほうでということ、今、おっしゃったわけですよ、こちら分かりました。

今度はSNSのほうなんですけれども、何回か本会議でも言ってますけど、なかなか観光コンベンション協会が作る動画で誘客というのはなかなかうまくいってない部分があ

るかとは思いますが、やっぱりこう SNS の発信というのはあるわけですが、これまでの経過、要は動画作ってもなかなかサービスが伸びない、それがいいねにつながってないというところを踏まえた上で、どういった形で SNS の発信をしていくのかという、そういった反省を踏まえての方針はありますでしょうか。

○福谷観光振興課長 それにつきましても、なかなかもうずっと議会、去年からの質問も出ておりますけれども、それ以前からもいろいろと、もっとインターネットだったり SNS 等も使いながらということで、観光コンベンション協会だけでなく広報戦略室の知恵を借りて、またこの 8 月に新しく地域おこし協力隊の方、観光情報発信とかインターネットとかにもちょっと明るいので、この方がこのたび就任されますので、その地域おこし協力隊の協力だとか広報戦略室の知恵も借りながらやっていこうということで、インフルエンサーにつきましても先ほどちょっと申し上げましたけれども、インバウンドの方でまたちょっと在日インフルエンサーを活用してまた積極的にやっていこうと思います。

今、幸せますコンシェルジュの方の中にインスタグラムですか、それにいろいろとどんどん発信している方がいらっしゃいますので、こういった方をもっともっと積極的に活用する、あるいは育てていくような取組を、今後、こういう方は非常に防府市にとっても重要な方だと思いますので、そういった方もちょっとうまく活用していきたいなということで考えております。

動画につきましてもはちょっと大きなことで、今から、まだ十分な成果は出ておりませんが、大きな課題という形で取り組む方向で、今やっていきますので、そういうふうに考えております。

以上です。

○久保委員 在日インフルエンサーの方というのはある程度、当たりがついているということでもいいんですか、それとも今からそういう有名な人に当たっていくという感じなんですか。

○福谷観光振興課長 基本的には広島とか福岡とか大都市にいるインフルエンサーの方を募集するような形で。その前にちょっとインバウンドの体験型コンテンツというのを今どういう形で魅力的に作っていこうかということで、それも含めて今、調整しているところでございます。

○久保委員 テレビの影響力もかなりあるということが今回よく分かったので、そちらもぜひ取り組んでいってほしいと思いますので、難しいかもしれませんが、それでどのぐらいの数字が上がるのかということもつかんでいっていただければということをお願いしたいなと思います。

あとSNSのほうですけど、若手の吉村議員がよく言われるんですけども、やっぱり影響力のある方がひとたび動画で紹介すると、かなりの数の方がそこを訪れると、なんか聖地巡礼みたいな感じですね。だからやはりそちらのほうにシフトしていったほうがいいんじゃないかと。PR動画というのはすごく技術的に美しいのを作られるわけですけども、なかなかそれじゃ再生数が上がらない。我々の世代じゃうっと思うような動画がかなり再生数稼いでる、それでそこに人が集まっていくということは実際あるわけですし、本当に今の若い方の御意見を十分に取り入れながら、本当にこの観光客数の増加、あるいは観光消費額の増加ですね、この目的である、そこにつなげていけるよう、ぜひ頑張りたいと思います。よろしく願いいたします。

○今津委員 ちょっと教えてもらいたいですけど、3ページの評価指標というのがありまして、これ何位とか出てますが、これは全体は幾らあって、これはどこの、要するにどうなんですか。全国の市町村が分母にあって、その中の何位ということなんですか。ちょっとそこをまず。

○福谷観光振興課長 この地域ブランド調査につきましては、インターネット調査で年齢20代から70代の消費者、男女別、年代別、あと地域別にほぼ同数ずつ行っておりまして、去年の調査で大体3万人から3万5千人の有効回答数がありまして、昨年度の調査対象としましては全国1,000の市区町村、47都道府県が全体、市は全市ですね、792市、プラス47都道府県にあと東京23区、あと市町村、町村につきましては185の町村で、合計1,000市区町村を調査対象としまして、大体6月の下旬から7月の中旬にかけてということで、今年も今調査が行われているのではないかと思いますけれども、去年も6月22日から7月4日にかけて調査を行われております。1地域ですね、防府で言えば防府市ですけども、1地域の平均の回答者数は去年は632人になるような回答、その方対象での…。

○今津委員 聞いたところだけ答えてくれれば。最初何、1,000ってのは何て、どこって。

○高砂委員長 ちょっとゆっくりに数字を言ってあげてください。

○福谷観光振興課長 47都道府県。

○今津委員 47都道府県の前に1,000って言ったでしょう。

○福谷観光振興課長 1,000は、1,000市区町村。

○今津委員 市区町村。(発言する者あり)

○福谷観光振興課長 全国1,000の市区町村が調査対象となっております。内訳が47都道府県と792の市ですね、全市。あと東京23区。町村につきましては185。

○今津委員 それで1,000ね。だから1,000の中の439位と。

○福谷観光振興課長 そうです。そういうことです。

○今津委員 それでね、あれですか、上位にあるところはこういったところがあるか調べていますか。

○福谷観光振興課長 ちょっとすみません。お待ちください。

○今津委員 それとね、上位にあるところと、それからあの、傾向ですね。こういったようなものが人気があるのかという、その辺のところを把握してますかね。

○福谷観光振興課長 お答えします。認知度でいきますと、上位、市でいきますと札幌市、あとは新宿区が一番、市区町村の中ではトップでございます。その次に札幌市、大阪市、京都市、鎌倉市、浦安市ですかね。あとは奈良市、名古屋市、那覇市、福岡市、こういったところが入っております。

全般的に見ましてやっぱり、大都市だとか、全国的に有名な、例えば、浦安市なんていうのは恐らく東京ディズニーランドの絡みがあるのかなというふうに考えております。

以上です。

○今津委員 新宿とか大阪ってのはどんなものが人気があるんですか。

○福谷観光振興課長 そうですね。認知度の調査につきましては、以下のこの市区町村、調査対象の市区町村につきまして、どの程度御存じですかという質問に対しまして、よく知っているというのを100点。まあ知っていますよというのを75点。少しだけ知っているというのを50点。名前だけを知っているというのを25点。名前も知らないを0点として、それを加重平均して出した順位でやっておりますので、まあ、そのよく知っている100を答えた人が多いということは、新宿なら新宿という名前で、そういう回答した人が多かったのではないかなと。あとは、先ほどのいろんな観光スポットとかも踏まえて、そういう形の回答での結果だというふうに考えております。

○今津委員 後でもいいですけども、新宿の中のこういったようなものの人気があったのか、まあ、そういうことをちょっと調べとってもらったらと思います。いいですか。

○福谷観光振興課長 はい。

○曾我委員 すみません、先ほど1,000と言われたんですけど、1,724が正解だと思うんですけど、市区町村ですね。市が792、町が743で、村が183とあるんで、やっぱり、僕らの認識は全国で1,700というのは常識なんで、ちょっともうその辺から間違えると根本的に間違ってくるかなというところがまず1点でございます。

それと、先ほど久保委員も言いましたけど、やっぱりこうインフルエンサーをうまく活用してやっていくという方向にシフトしていくのがやっぱり正解なんだなという、在

日じゃなくて、日本人のインフルエンサーですね。やっぱりこう求められるものは費用対効果なんで、幾らこの1,650万円とかいろいろ金額を一生懸命つぎ込んでも、それだけの効果がないとなかなか厳しいんじゃないかなというので、それでもって、大体500位とかその辺を前後しているようですと、やっぱりどうしても費用対効果がないんじゃないかという言わざるを得ないかなというのと、あとは市のほうは僕は個人的には頑張っているかなと思うんですけど、観光コンベンションのほうは全く表に見えてこないんで、やっぱりその辺をしっかりと、観光コンベンションが前面に出るようにしっかりと頑張っていたきたいということですね。

ほかに、まず防府市民がやっぱり観光施設、4つある観光施設プラス、英雲荘とか、一宮とか、あの辺も好きになってもらうということがまず一番最初にないと、どうしても防府市民がしっかりPRしていくということをしていかないと、どうしてもこういう観光客が増えてこないのかなということで、またイベントの初日とか、思い切って無料開放をすとか、防府市民に限ってだとか、ちょっとその辺はできるかどうか分からないんですけど、あと半額のチケットを市報につけてみんなに配るとか、そういったものもちょっと何かやっていって、試しでやってみたらいいんじゃないかなと思うんですけどね。そういったものを何か今までと同じような視点でやっていると、同じような結果しか生まれないという、もう180度まったく違った形で、失敗しても市長が責任を取るだけなんで、思い切ったものをやっていっていただきたいということをお願い申し上げます。

以上です。質問じゃないですけど。

○高砂委員長 福谷課長、今の御要望に対して。

○福谷観光振興課長 ありがとうございます。まず最後のほうに、ちょっと要望を聞いてましたけど、例えばイベントの初日、無料開放をすということでございますけれども、今年は文化財部局が同じ部になりまして、市長部局になりまして、今、観光と文化財が一緒になりましたので、どんどん活用していこうということで、早速、この秋に、観月会を今、英雲荘で、今年は去年と同じ3回観月会がありますけれども、そのうちの、今11月3夜を、十日夜にはなりますけれども、11月22日と23日ですけれども、これ3回目につきましては毛利邸で観月会を初めてちょっと開催してみようということで今調整しております。で、英雲荘の観月会につきましても、何かいろいろとイベントというか、お茶体験だとか、そういったところも含めて、あとはもう実費だけ、お茶代金の実費だけをちょっと取るような形で、入館は無料にしようかということで今調整したりしながら、そういうふうな取組を今、英雲荘とあと文化財部門とも、文化振興課ですね、その辺を含めて今進めております。これを皮切りに、もっといろんな資源、で、あと内部でもいろいろ

と協議をして、議論をしているんですけども、まず市民がやっぱり自分たちの住んでいるところすごいよねと思ってもらえるようなイベントだったりとか、イベントが何だとか活用の仕方をちょっと考えていかなければならないということは、日頃から議論はしていますが、何かそれを少しずつ実現するように今取り組んでいるところでございますので、引き続きちょっといろいろと御理解いただければと思います。

以上でございます。

○三原委員 説明していただいた進捗状況について、単純なことなんですけど、認知度、観光入込、消費額、都度都度、コロナ禍、コロナ禍という説明がありましたが、コロナ禍は防府だけじゃなくて全国みんな一緒ですよ。なのにどうして防府市はこの1、2、3について減少、また下がっているのか、どのように考えられていますか。

○福谷観光振興課長 まず、認知度向上につきましては、こちらの把握している数、元となるのが先ほどのブランド調査によります、全国の方を対象としたインターネット調査という形でございますので、なかなか全国に向けてまだ防府の認知度を高めるような発信の仕方が足りていなかったのかなというところが、この順位をどんどん下げている、今、下がっている原因になっているのではないかと考えております。

観光客数につきましては、何とか花回廊も含めてやれるところは何とか実施しようということでコロナ対策をしっかりとやってきたところではあるんですけども、なかなかやっぱり中止になった愛情防府フリーマーケットとかをはじめとしまして、何万人単位で来られるようなイベントがなくなったというのも大きかったのかなというふうに考えております。今年は愛情防府フリーマーケットは4年ぶりですかね、開催されるという方向でございまして、かなりまた変わってくるのではないかと考えております。

1人当たりの観光消費額につきましては、先ほどの説明の中でも少し申し上げたんですけども、やっぱり滞在時間が短いということが主な原因なのかなというふうに考えているところでございます。

以上です。

○三原委員 1、2、3、それぞれPR不足、イベントの中止があったとか滞在時間が短かったということを、4年の実績からそういうふうに分析されているんですが、これはどのように生かしていこうとされているのか。

○福谷観光振興課長 認知度向上につきましては、この秋にまず先ほどの、先月ありました全国放送の人気番組の「鉄腕！DASH！！」ですね、ああいう形で取り上げられたら、やっぱり全然反響が違うなというのも分かりましたし、この秋には、また皆様にも周知はいたしますけれども、放送決まりました。ちょっと番組名は言えないんですけども、全

国放送のところでやって、その辺の反響等も見ながら認知度を上げていこうと。何か全国にうまく発信できるような、それかインフルエンサーの方なのか、ユーチューバーの方なのか、そういうところも踏まえてやっていかないと、ちょっとなかなかこの認知度向上は簡単には、一筋縄では、全国のいろんな観光地を相手に上げていかなければならないので、そういったところをちょっと地道に取り組んでいこうというふうに考えております。

消費額につきましては、もっともっと滞在時間を延ばすために、そうなったときはもう観光施設と連携したイベントなり何かイベントを打つだとか、もっと観光施設のことを、モデルルートみたいなところも踏まえてレンタサイクルを使ったら何分で回れますよという、3時間コース、4時間コースぐらいで滞在できるような、滞在してもらえそうな何かちょっと仕掛けが必要なのかなというふうに考えているところでございます。

以上です。

○三原委員 滞在時間が短いというのは、これ昔からずっと言われてきていると思うんですよ。どうして短いですか。その原因は何ですか。

○福谷観光振興課長 そうですね、滞在時間が短い、団体はバスツアーとかで来て、天満宮ピンポイントで来られるという方が多かったです。それがなかなか天満宮行って参拝して帰るとい、そういうところを今後、これもコロナの中でも、今、特にそこで4施設という形に特化しながらですね、今特にその中でも天満宮、天神様と毛利様という形で、毛利様という形の中では基本的に全国ブランドでございますので、もうちょっとここに力を入れて、少なくともやっぱり4施設においては天満宮だけじゃなくて毛利氏邸、毛利博物館、県内でも最多の国宝を持っておりますので、ここにもぜひ見ていただきたいという、そういうような仕組みを、イベントを仕掛けるにしてもそういったスタンプラリーとか、1か所だけじゃなくて全部回れるような、回ってもらえるような仕掛けを、ここ二、三年の間はいろいろと考えているところでございます。

それで、ちょっと、それをずっと繰り返しながら、また少しずつ滞在時間を延ばしていく、そういう地道なことをこれからも続けていこうとは思っております。

以上です。

○三原委員 それで、先ほどから「鉄腕！DASH！！」がかなり反響が高く、具体的に反響の件数、問い合わせの件数、具体的な内容を教えてください。

○福谷観光振興課長 件数自体、ちょっとまだ、すみません、件数は把握はできておりませんが、内容としましてはぶっかけ飯ですかね、ハモ1匹を使った、あれを食べられるのかとかいうことでございます。それが一番大きな、食べたいな、食べられるのかというところが、そういう声が多かったということは聞いております。

○三原委員 ちょっといやらしいこと言いますが、件数はって言われたけど、日にちも経ってるのに即座にそういうものを把握していかないと、それが反映できないのではないかと私は思います。もうそれはコンベンション協会のことという、そういうふう聞こえるんですよ、今言われているのね。だからやはりそういうものってのは、もう反響等も過敏になるぐらいデータを入れて、それに対してどういう対応をすとか、そういうことを考えていくのが今からじゃないかなって今思っているんですよ。だからもっと連携を取って、逐次情報を入れて、前も本会議か何かで――説明会かな、予算委員会かな、僕はちょっと嫌なこと言いました、看板のことで。実態が分からないのに対策できるのかという話もしたと思いますけど、やはりこれちょっともう把握して、ここで私たちが質問してもてきぱき答えられるようじゃないと、やっぱり先は見通せんと思いますよ。

それで、先ほどちょっと触れられましたけど、今度、旅番組で全国版に、具体的には言えないけど、言える範囲でちょっとお話いただければ。

○福谷観光振興課長 具体的に言える範囲といえば、大体視聴者で言いますと、情報としてつかんでいるのは視聴者が約460万人近くいる番組ということで聞いております。中高年層、防府市の、大体、歴史文化の町ということでございますので、防府市を訪れる方、結構中高年層多いんですけれども、そういった中高年層から支持を集めるという旅番組でございまして、これについてちょっとこの秋に仕掛けていくということで考えております。以上です。

○三原委員 それでね、インフルエンサーだけど、これちょっと参考にしてほしいんだけど、過去に今ちょっと病気であまり表に出て来られないけど、漫才の大助花子。あの方が確か島根の観光大使か何か、なってらっしゃいます。で、年に2回か3回は必ず観光バスで大阪のほうからお客を連れて来られると。テレビで随分前ですか、私見たとき、これは面白いなというので、かなり効果的なことをやってらっしゃいました。ぜひ、そういうことも防府はまた考えていただきたいというのは、防府の力だけではどねえもならんことですから。そういう、まあ他力という言葉悪いかもしれんけど、人の力を借りることも大事なことだと。

で、先ほど外国人の方の体験の、いろいろ書いてありましたけど、着物のしをりさんですかね。あそこで話を聞くと、結構あの、着物を着たがる人が多いんですね。多いらしいです。着物を着るといのも。例えばね、これ1つの参考ね。参考で毛利氏庭園を使うんならお殿様の格好をすとか、お姫様の格好をすとか。そういう体験が、武家の格好ができるとか。そういう体験も面白いんじゃないかなって、私はちょっと今思ったんですけど、まあそれも参考、これはね。

それと吉村議員の話が1回ほど出ましたが、吉村議員がSNSとか、観光地にQRコード、そういうものを作ってリアルな説明をということで、大変これまた、ためになる話だなと思いますが、その話を聞かれて何か検討されましたか。

○福谷観光振興課長 その辺は、今、準備は進めているところでございます。多言語化につきましてもそういったQRコードなんか、例えば毛利邸とかもなかなか解説がないと、すごいものではあるんですけど、なかなか解説が足りてないところもあるので、何かできないかなど。例えばQRコードを読み込んだら何か出るような、何かできないかなどというところも、ちょっと今検討を進めているところでもありますし、パンフレットとかでも紙面が限られていますので、うまくこういったQRコードとかも活用しながらということは考えているところでございます。

以上です。

○三原委員 それで、最後に、防府市観光振興推進協議会で次の計画をという話だけど、どういう方がメンバーなんですか。

○福谷観光振興課長 お答えします。顧問としましては学識経験者の方、観光関係団体の方、一般公募した市民の方、市民活動団体、観光関連、民間関連事業者ということで、学識経験者の方につきましては山口大学の方が入られております。観光関係団体としまして、防府商工会議所、観光コンベンション協会、防府観光物産協会、あと天神町……。

○高砂委員長 すみません、今の対象のところの団体をもう少しゆっくり言っていただけますか。

○福谷観光振興課長 観光関係団体につきましては防府商工会議所、防府観光コンベンション協会、防府観光物産協会、天神町銀座商店街振興組合、あとは山口県観光連盟、あと市民の公募の方からは2名入っていただいております。市民活動団体につきましては、今、特定非営利活動法人の市民活動さぼーとねっとから1名、観光関連、民間関連事業者からは、まず1つは旅行関係業者からJTBの方、あと産業観光関係者ということでマツダ防府工場から入っていただいておりますので、今、全員で合計11名の委員さんで構成されております。

○三原委員 山大学の学識経験者というのは、観光のどのような学識経験者とか、県観光連盟の方というのはどのような学識を持っていらっしゃるのか。

○福谷観光振興課長 山口大学の方は経済学部の方でございまして、いろんな分析ですね、産業連関表とかを使った経済効果だとか、そういうことが御専門の方でございまして、去年あたりからいろいろとイベントだけを打つのではなくて、そういった経済効果とかいうのも算出のほう、学生さんとかとも協力しながらやっていこうということでやっておりま

す。

あと、県の観光連盟につきましては、誘客プロモーション部の部長さんが、今、委員さんになっていただいているところでございます。

○三原委員 もう1回言ってください。

○福谷観光振興課長 誘客プロモーション部というところがございまして、その部長さんに委員の方に就任していただいています。

○三原委員 先ほど、やはり一番大事なのは市民が市内の観光のことというか、そういうことをちょっと認知をしてほしいという話だったけど、市民が市内の観光施設と観光に関してどのくらい認知をされているのかという調査をされたことがありますか、最近。

○福谷観光振興課長 最近はそれは行われておりません。

○三原委員 あの手この手と、市民だけが優先すべきことではないんですけど、やはり先ほど市長も市民ファーストということ、防府市プランということ言われますけど、やはり市民に知っていただくためにはどんなことをしたらいいのかと。何かされていますか、そういう何か、市民にそういう、市民の認知度、観光に関する認知度を高めるために何か施策されていますか。

○福谷観光振興課長 例えばこの間の6月18日にありました毛利報公会の企画展と連動した親子イベントの隆元公の生誕500年の企画展とか連動したイベントというのは、毛利氏邸の中でやったんです、親子イベント。それにつきましては、少しでも親子で、子どもにも防府のよさを子どもの頃から知っていただくということで、そういったイベントにつきましては全小・中学校に協力を得まして、イベントの告知チラシを配布したりだとか、それは同じく山頭火ふるさと館につきましても、地元の種田山頭火という偉大な人物を知ってもらうために、山頭火ふるさと館に来てもらえるように教育委員会の協力を得ながら、そういった告知をしながらとか、そういう取組は行っています。少しでもちょっと防府のよさを、特に子どもさん、小・中・高生とかに知ってもらえるような取組は、その辺はやっております。

以上です。

○三原委員 小・中・高生というか、今、小・中・高生、例えば社会見学というのかな、何になるのかな、そういう歴史探訪というんですけど、例えばそういう遠足等で各学校にこういうふうというようお願いはされていますか。

○福谷観光振興課長 その辺がちょっとコロナの中でも、軒並み県内の修学旅行等が中止になったということを聞いて、県内の教育委員会を回って、ぜひ防府はこういう見どころ、社会見学にふさわしいような……。

○三原委員 今は、市民を対象。市内の小・中学校とか。

○福谷観光振興課長 市内の方での社会見学とかいう形ではやっていませんが、そういったイベントについては子ども向けとかのイベントについては、告知はしておりますが、なかなか社会見学でぜひというところまでは、その辺はまだ薄い状況となっております。

○三原委員 ぜひね、やはり小さいときからそういうものを認知度を高めとけばというのがありますので、ぜひそういうことも考えてもらいたい。

それで参考にしてもらいたいけども、30年か40年前の話なんですけど、防府商工会議所青年部が市民を対象に東京のはとバスツアーに対抗して市内の鳥バスツアーをやろうじゃないかということで実施しました。大変な反響で、確かバス2台用意したんですけど、もう募集かけたらすぐいっぱいになりました。もうこういうことをやっぱり仕掛けて市民の参加を、バスいっぱいだから40人か50人ですね。それも約100人近い市民が確か2回か、年に2回か、2回だったと思う、春、秋。大変な反響でした、それは。市内の観光巡りです。その観光案内も青年部の会員の方が自分たちで勉強してそういうことをされました。私もそこに参加させてもらったんですけど、今も覚えていますよ。その後、私は親戚の者を連れて車で回って説明したことを記憶しております。ぜひこういう仕掛けもやっていくべきじゃないかなと、看板設置するよりはるかに効果があると思いますので、ぜひお願いします。

以上です。

○今津委員 ちょっと要望なんですけどね、杉江部長ね、要望しておきますけど、今日は基本計画ということで、非常に内容がもう抽象的なことで、これを聞いても果たしてこれから防府市の観光はどうなんじゃろうかというようなことで、何かこう見栄えというか、聞いても本当にどうなんかなというような感じにしか取れないわけです。

それで、先ほど三原議員から二、三の具体的な提案等もあったけども、そういった何かを、これでやるんだというようなものが欲しいと思うんですね。何かそういうものを探して具体的に示してもらいたいと思うんですね。そういうものがないので。ただ、こういったような、今、今日説明されたようなことだけでは、防府の観光はあまり期待が持てんなというような感じもあったんで、その辺をぜひいろいろと検討・研究してやってもらいたいというふうにお願いします。何かありましたら。

○杉江文化スポーツ観光交流部長 なかなか見えてこないということでございますけれども、市といたしましては、我々としては、やはり4施設を中心に頑張っていきたいと。それからインバウンド、これから需要のほうは今、回復しておりますので、そちらのほうの取り込みということで今年は頑張っております。

それから今、御意見のほういろいろお聞きしまして、やはりSNS、それからインフルエンサーといったことですね、これまであまり取り組んでこれなかったというところを中心に、今後やっていく方向でいきたいと考えております。

以上でございます。

○今津委員 それで、何かこう、やっぱりその注目を集めるような、何かこれというようなものが欲しいなということで。言いたいことは理解してもらえたかね。お願いします。

○曾我委員 すみません、1点ほどあれなんですけど、ちょっと言い忘れちゃったかなと思うんですけど、基本的に防府の観光地って言ったら、山口市とか周南市とか、あと美祢とか考えたら羨ましい限りかなと思う、宇部とかもですね。それがあんまり生かされていないんじゃないかなというのを特に思いますので、宿泊は湯田温泉でもいいんですよ。その代わり観光は防府市に来てもらうという、山口市としっかり、観光部長、僕、同級生なんで、そういった話もよくするんですけど、防府市と山口市がお互い連携する、宇部市と連携する、周南市と連携するというので、もっと引っ張ってこれるんじゃないかなということをお思いますので、その辺ちょっと、市との連携をしっかりと。今だったら山口市と萩市のほうがどうしても行ってしまうというような傾向が高いと思うんで、山口市と防府市が連携すると、湯田温泉に泊まった客は防府市の観光をしてもらえるように、ちょっとその辺をこう、しっかり御努力していただきたいということを申し上げて終わります。

○梅本委員 御説明ありがとうございました。認知度向上は観光客数がコロナ禍によってということ、この説明は分かるんですけども、観光消費額の減少について、コロナだからささっと見てお土産等はなかなか買わないと、滞在時間が少ないというような説明が最初にあったんですけども、実際、コロナ禍であっても観光に来るような人がお土産を買わないという考察はちょっと考えられないんじゃないかなと私は感じるんですけども。なぜこれが言いたいかという、ほかに何か原因があるのではないかなという考察をしていただきたいなと思っています。1人当たり、当初から比べると700円の減少、200万人が来ますと約15億の減少ということでございますので、もっともっとほかに原因があって何か改善策が練れるのではないかな、ぜひお願いしたいなという要望でございます。

そしてもう1点、ターゲットを設定した広報をお願いしたいなと思います。先ほどから出ているテレビというのは、中高年層はよく見るけども若い人たちって最近テレビ見ないよねとか、ユーチューブだったら若い人はよく見るけども高年層はあまり見ないよねとか、フェイスブックだったら40歳から70歳ぐらいまでは見るよねとか、ターゲットによってツールが異なるということと、ターゲットによって年齢が異なるので、広報の作り方も変わってくると思うんですよ。動画1つの作り方もターゲットによって変わってくると

思いますので、ターゲットを設定した広報をお願いしたい。これが2点目。

そして、続けます。委員長とお話で出たんですけれども、自衛隊の入隊式、卒業式には県外から1,000人以上の保護者の方が集まられます。ぜひこういった方に、ついでに観光して帰ってもらうような手法を考えていただきたいと思います。同様に航空祭にもかなりの方が来られます。ほとんどの方が飛行機を見て帰られるんですけども、ぜひついでに天満宮にちょっと寄って帰ってもらうような、そんな手法も考えてもらいたい。以上の要望です。

以上です。

○高砂委員長 併せて委員長からも補足なんですけど、やはり防府読売マラソンもかなり国内からたくさんの方がお見えになられます。選手の方も、家族、友人、知人も含めたら3,000名、4,000名と足を運んでくださる最大数としてはそのくらいにもなるんじゃないかと思いますので、そういった方たちへの発信も併せて、今、副委員長が言われたことに併せて要望しておきたいと思います。

ほかに質問はございませんか。委員外委員さんはいいですか。いいですかね。よろしいですか。分かりました。

ほかにないようでございますので、文化・スポーツ・観光についての調査をこれで終わりにしたいと思います。

以上で、総務委員会を閉会いたします。執行部の皆様、大変お疲れさまでした。退席いただいて結構です。資料作り等、これからもぜひよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

午前11時 1分 閉会

防府市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

令和5年7月13日

防府市議会総務委員長 高砂 朋子